

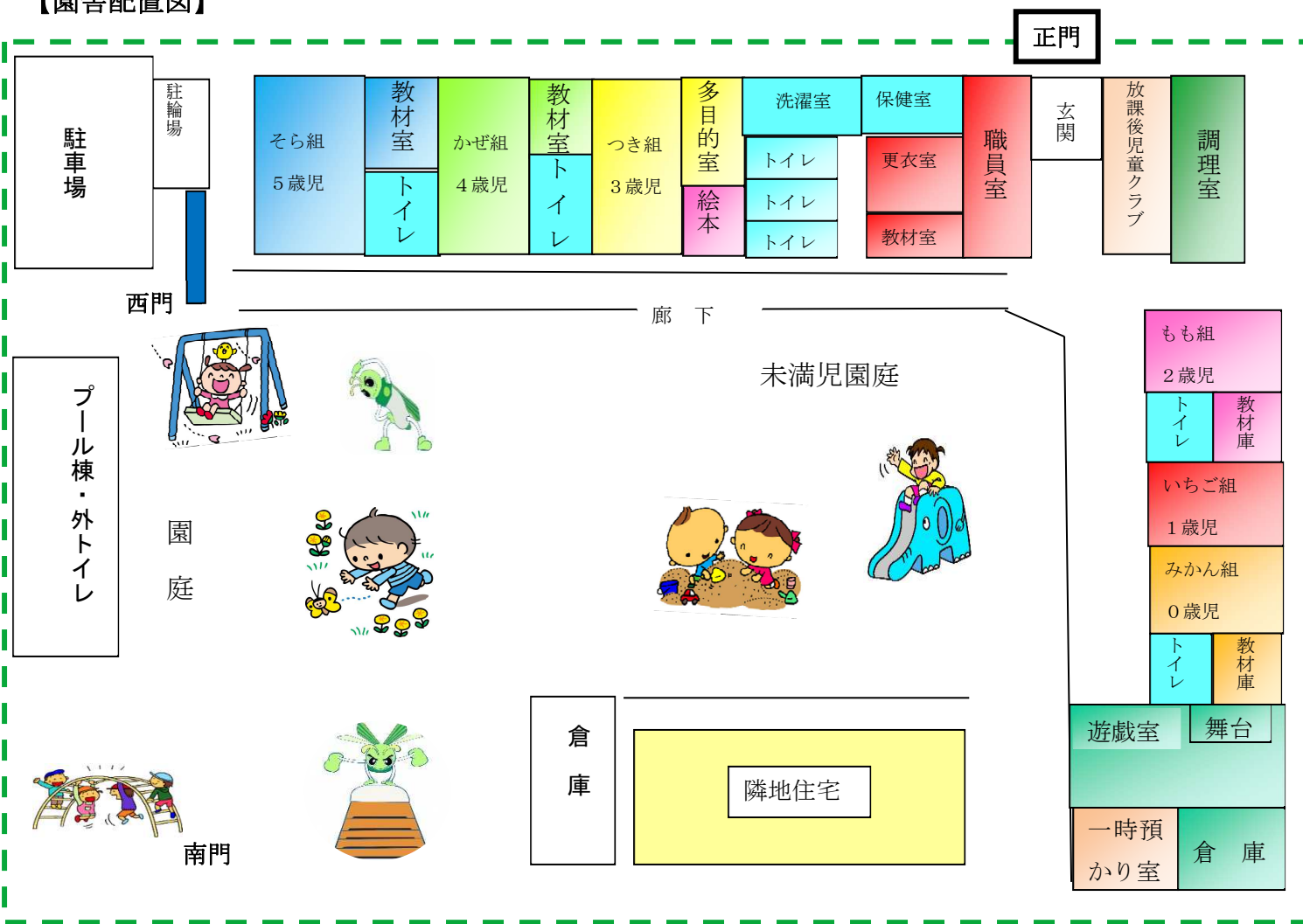
【園区の概要】

本園はJR袋井駅より南へ約7kmの地点にあり、園のある笠原地区は自然豊かな地域である。園周辺はコミュニティセンター・児童館・小学校等の文教施設が集結している。地域住民はこども園の教育・保育に理解を示し、園生活の運営に協力的である。年々、未満児を中心として笠原地区外からの通園が増加傾向にある。また、保育部利用者も増加している。

令和8年度

園番号 9

【園舎配置図】



# こども園経営書



【袋井市立笠原こども園沿革】

| 年度      | 主な内容                     |
|---------|--------------------------|
| 平成29年   | 設置許可                     |
| 平成29年3月 | 落成式                      |
| 平成29年4月 | 幼保連携型認定こども園 袋井市立笠原こども園設立 |
| 平成30年4月 | 園庭整備完了（遊具設置等）            |
| 平成31年4月 | 袋井市一般型一時預かり事業開始 園歌制定     |
| 令和元年6月  | 未満児園庭 芝生化                |



【園児数】

| 学年  | 組   | 園児数 |    |    |
|-----|-----|-----|----|----|
|     |     | 男   | 女  | 合計 |
| 0歳児 | みかん | 1   | 2  | 3  |
| 1歳児 | いちご | 3   | 4  | 7  |
| 2歳児 | もも  | 5   | 4  | 9  |
| 年少  | つき  | 12  | 7  | 19 |
| 年中  | かぜ  | 8   | 5  | 13 |
| 年長  | そら  | 9   | 6  | 15 |
| 合計  | 6学級 | 37  | 29 | 66 |

【職員】

|        |        |       |        |
|--------|--------|-------|--------|
| 園長     | 高橋 裕一  | フリー   | 照井 和美  |
| 教頭     | 秋山 千穂  | フリー   | 松本 陽介  |
| みかん組担任 | 丸山 章子  | フリー   | 佐々木 夏未 |
| いちご組担任 | 渥美 紗貴  | 保育補助員 | 兼子 公仁美 |
| いちご組担任 | 二俣 奈都子 | 保育補助員 | 岩本 紗矢佳 |
| もも組担任  | 田辺 昭人  | 保育補助員 | 金原 麻衣  |
| もも組担任  | 内藤 さやか | 保育補助員 | 山村 友子  |
| つき組担任  | 増田 莉己  | 早番補助  | 小久江 幸枝 |
| つき組担任  | 松下 理恵  | 早番補助  | 水溜 淳子  |
| かぜ組担任  | 鈴木 りな  | 遅番補助  | 蜂須賀 涼子 |
| そら組担任  | 八木 志穂  | 外国人支援 | 由井マリアネ |

**浅羽学園 袋井市立笠原こども園**

〒437-1311 静岡県袋井市山崎5093番地の13

TEL・FAX 0538-23-4121

E-mail: KASAHARA-k@city.fukuroi.shizuoka.jp

令和8年度  
笠原こども園グランドデザイン

浅羽学園

自ら求めて学び続ける子  
自分の良さを発揮する子

意欲作り  
できるようになりたい、上手になりたいなどの目的をもって考えたり試したりする。

園目標  
思いやりと笑顔あふれる元気な子

身体作り  
遊びを通して体を動かす楽しさを知る。食べることでできる種類や量を増やす。

つながり作り  
友達の気持ち、周りの状況から自分の気持ちに折り合いをつける。

園評価を基にした運営の見直し

【柱となる評価指標】※肯定率  
 信頼できる先生がいる 95%以上  
 園に行くことを楽しみにしている 80%以上  
 変化を感じる 95%以上  
 相談する体制がある 90%以上  
 様子をわかりやすく伝える 90%以上 成長

浅羽学園の取組

- ・学園アプローチカリキュラムの実践
- ・年長児と笠原小1年生との交流
- ・年長児の浅羽南・北幼稚園児との交流

地域・家庭とのつながり

- ・園外保育を通して、笠原地区を知ったり、遊びや遊びの興味を広げたりする
- ・園協議会や園評価等を生かした園運営
- ・子育て相談や個人面談の実施
- ・ルクミーを活用した情報発信、情報共有

働き方改革の推進

- ・こども園としての運営方法の見直し
- ・年休取得日数の増加、時間外勤務の縮減

だれでも通園制度の安定運営

園内研修の見直し

- ◎子どもの自己肯定感を高める保育を考える
- ※OJTを中心とした職員個々の保育力の向上
- ※分掌組織を生かした園保育力の向上

令和8年度 浅羽学園 笠原こども園 研究構想

浅羽学園教育目標 「こころざしをもち、共によりよく生き抜くたくましい子」の育成

園目標 「思いやりと笑顔あふれる元気な子」

子どもの実態

- 明るい子が多い。
- 体を動かし、元気に遊ぶ子が多い。
- 情緒の不安定さがある。  
(気持ちの切り替えに時間を要する。大人との関わりを求める。)
- 気持ちや思いを上手く言葉で表現できない。
- 生活リズムの乱れ、睡眠不足等から不機嫌

育ちの三つの柱

【意欲作り】

できるようになりたい、上手になりたいなどの目的をもって考えたり、試したりする。

【身体作り】

遊びを通して体を動かす楽しさを知る。食べることでできる種類や量を増やす。

【つながり作り】

友達の気持ち、周りの状況から自分の気持ちに折り合いをつける。

【研究主題】

「子どもが互いに認め合える関係づくり」～互いを知る・気付く・伝える～

【主題設定の理由】

昨年度は「自己肯定感を育む保育」をテーマに、園児の姿を丁寧に見取り、発達課題に応じた関わりを職員間で共有しながら、保育実践を深めてきた。その結果、子どもたちには“自分が好き”“認められている”という感覚が育ち、自己肯定感の高まりが見られた。しかし、日々の見取りを重ねる中で、「基本的生活習慣の定着」「気持ちの伝え方や関わり方が難しい」「遊びが続かず深まりにくい」といった、新たな課題が見えてきた。これらには、子どもたちの“心の土台”がまだ十分に育っていないことが背景にあると考えられる。安心感・他者への信頼・生活の安定が揃ってこそ、正しい意味での自己肯定感や社会性が育つ。そこで、今年度は、自己肯定感の育ちをより確かなものにするために、生活習慣・社会性・遊びの継続につながる環境と援助を見直していきたい。また、子どもたちが安心して過ごし、遊びを深めながら他者も大切にできる『心の土台』を育てる研修を取り組んでいきたい。

【研修方法】

- 魅力ある環境づくり
  - ・環境研修を行い、各クラスの環境や遊びを学び合う
  - ・子どもの興味から考える、環境の再構成
- 心がつながる関係づくり
  - ・記録を活かした実践の振り返り
  - ・意図をもって行う、ミーティングや園内研修  
(未満児：毎週木曜 以上児：毎週金曜日 月案検討<第4月曜日>)
  - ・子どもの心の動きや個に寄り添った関わり  
未満児：子どもの思いをありのまま受け止め、一人一人の心に向き合う援助  
以上児：個の良さや友達の良さに気付く振り返り
- 生活習慣の定着と保護者支援
  - ・生活習慣定着のための、見取りと工夫
  - ・保護者に寄り添い、子どもの育ちや課題を協働で支える
  - ・ICTを活かした、子どもの育ちや子育てについての情報発信（ルクミー）